



第2期桜井市 観光基本計画

令和4(2022)年度～令和8(2026)年度

自然につつまれ、神を感じて、御仏に会える 癒やしの里“桜井”



目 次

第1章 はじめに

1-1	計画策定の背景と目的	1
1-2	計画の位置づけ	2
1-3	計画期間	2

第2章 桜井市の観光の現状と課題

2-1	桜井市の観光の現状	3
	(1) 地域特性	3
	(2) 観光特性	4
2-2	第1期桜井市観光基本計画の検証	6
2-3	桜井市の観光の課題	9
	(1) SWOT分析	9
	(2) 桜井市の観光の課題	10

第3章 計画の基本方針

(1)	目指すべき将来像	12
(2)	基本方針	14

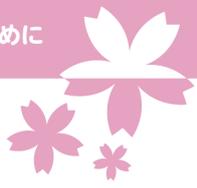
第4章 施策

4-1	施策体系	16
4-2	観光推進施策	18
	基本方針1. 穏やかに時を過ごす癒やす観光	18
	基本方針2. ほんものを感じる魅せる観光	20
	基本方針3. 自然の恵みをいただく味わう観光	22
	基本方針4. 誰もが心地よく楽しめる安全・安心な観光	26
	基本方針5. 暮らしの魅力が実感できる繋がる観光	31
4-3	成果指標	34

第5章 観光振興の推進方策

5-1	関係者の役割と連携	35
5-2	計画の進行管理	36
5-3	SDGs との関係	36

参 考		37
-----	--	----



第1章 はじめに

1-1 計画策定の背景と目的

我が国では、平成27年度策定の「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づき「世界が訪れたくなる日本」を目指し、観光先進国としての取り組みを行ってまいりました。訪日外国人旅行者数は右肩上がりに伸び続け、平成30年には3,000万人を超え、国内各地に消費の拡大や雇用の誘発などの効果をもたらしています。また、奈良県は令和3年度に「奈良県観光総合戦略」を策定し、「ここにしかない魅力であふれる観光地・奈良」「いつ来ても快適な観光地・奈良」「選ばれる観光地・奈良」の3つの将来像の実現を目指し、観光政策に取り組んでいます。

このような変化の中、桜井市でも観光にまつわる様々な取り組みを進めてまいりました。平成26年度に「奈良県と桜井市とのまちづくりに関する包括協定」を締結したことを契機に、市内5つの地区で「まちづくり基本構想」策定し、各地区の持続的な発展や活性化を目指し、重点的に地域のまちづくりに取り組んでいます。平成29年度にはふるさと納税の返礼品を16品目から267品目へと大幅拡充、令和4年3月現在は900品目を越え、寄付金額は県内市町村の中で上位に入っています。

また、市内の遺跡・文化財の部門においては、平成26年度に「桜井市歴史文化基本構想」を策定したほか、平成27年度に策定した「史跡 纏向遺跡・史跡 纏向古墳群 保存活用計画書」に基づき、平成29年度に纏向遺跡周辺の辻地区の整備や解説案内サインの設置を行ったことにより、観光目的での来訪者にも見学していただきやすくなりました。

一方で、令和2年度には新型コロナウイルス感染症の流行により、働き方・人との繋がり・健康など生活様式の変化を余儀なくされ、2020年は世界中の観光客が前年比73.1%減少[※]するなど、観光産業に大きなダメージを与えました。

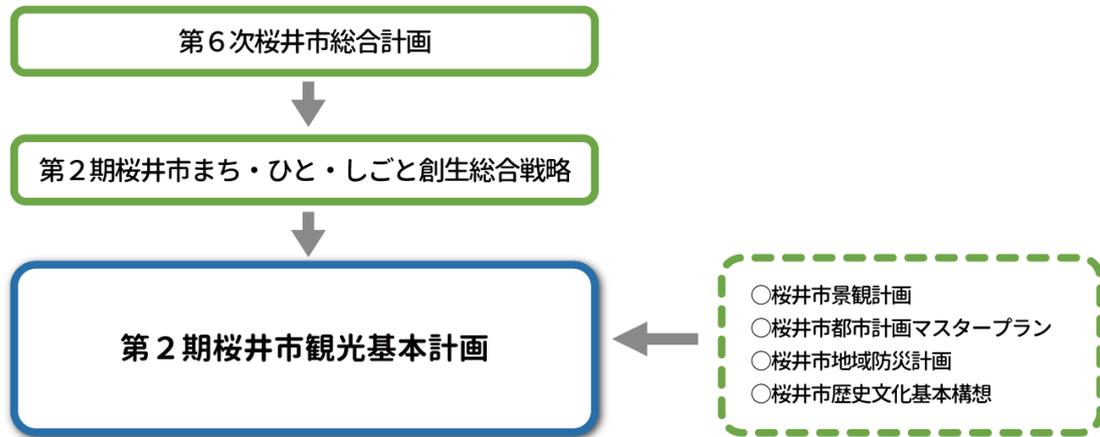
桜井市ではこのような状況を踏まえ、目まぐるしく変化する社会状況・観光ニーズに対応すべく、観光における目指すべき将来像を改めて設定し、より効果的な観光関連施策を示す第2期桜井市観光基本計画を策定します。

※国連世界観光機関（UNWTO）より



1-2 計画の位置づけ

本計画は、桜井市の最上位計画である「第6次桜井市総合計画」の観光分野における個別計画として位置づけられ、また、「第2期桜井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」とも整合性を図るほか、景観計画などの関連計画との連携を図ります。



第6次桜井市総合計画では、目指すべき将来都市像を、「はじまりの地から未来へ 歴史と自然がいきづく万葉のふるさと 桜井」と決めました。分野別展開において、観光・産業分野では「桜井の個性を活かした活力あるまち」として、まちの将来の姿を「桜井市が誇る歴史・文化等の観光資源のさらなるPR、農業や木材、そうめん等の地場産業のブランド化や豊かな森林資源を活かした新たな価値の創造など、桜井市らしい地域色豊かなまちづくりに愛着と誇りを持って暮らしている。」としています。

第2期桜井市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、基本目標2に「地域資源を活用し来訪を促進する戦略的プロジェクト」を位置付けています。

1-3 計画期間

本計画の計画期間は令和4年度から令和8年度までの5年間とします。

第1期桜井市観光基本計画は計画期間を10年としていましたが、観光のトレンドの変化は早く、平成25年以降急増したインバウンド等の新しい観光ニーズに対応しきれていなかったことから、第2期観光基本計画では計画期間を5年に改めます。



第2章 桜井市の観光の現状と課題

2-1 桜井市の観光の現状

(1) 地域特性

桜井市は、飛鳥時代以前において、実に13もの天皇の宮があったと伝えられる、古代ヤマト王権発祥の地、まさに「日本の国のはじまりの地」といえる場所です。歴史が古い桜井市では非常に多くの歴史文化資源があり、市域北部の纏向遺跡は邪馬台国畿内説と関わりが深く全国から注目されています。また、古事記や日本書紀、万葉集などにも数多く登場し、日本最古の市場である海柘榴市で交差するいくつもの古道には、60基あまりの万葉歌碑が建立されていて、訪れる人に当時の情景を伝えています。その他、わが国最古の神社である大神神社をはじめ、桜や牡丹などとともに楽しむことができる長谷寺、紅葉や「けまり祭」で有名な談山神社、日本三文殊の一つである安倍文殊院、国宝十一面観音のおわす聖林寺、そのほか門前町としての風情が残る三輪や初瀬のまちなみなど豊富な歴史文化資源があり、これらの施設を目的に市内外から絶えず多くの観光客が訪れています。

一方、桜井市では、自然・歴史・文化資源の豊かな風土を生かし、木材産業や三輪そうめんに代表される地場産業など、さまざまな産業を育て発展させてきました。このうち木材産業については、吉野材など良質材の産出や木製品の加工が盛んで、市の重要な産業となっているほか、そうめんについては、桜井市が発祥の地であり、伝統の技法が受け継がれています。

また、桜井市には“日本に初めて”の足跡が数多く残されています。万葉集が読み始められたのも、相撲の原型として力自慢の二人が力比べをしたのも、桜井市です。こんな桜井市は、まさに「日本のはじまりの地」と言えます。

代表的な観光資源

史跡・遺跡	史跡纏向遺跡、史跡山田寺跡 など
社寺	大神神社、長谷寺、談山神社、安倍文殊院、聖林寺 など
風景・名所	山の辺の道、三輪・初瀬のまちなみ、三輪山 など
地場産品	三輪そうめん、出雲人形、木工製品、革製品 など
日本のはじまり	万葉集発祥の地、相撲発祥の地、芸能発祥の地、仏教伝来の地 など

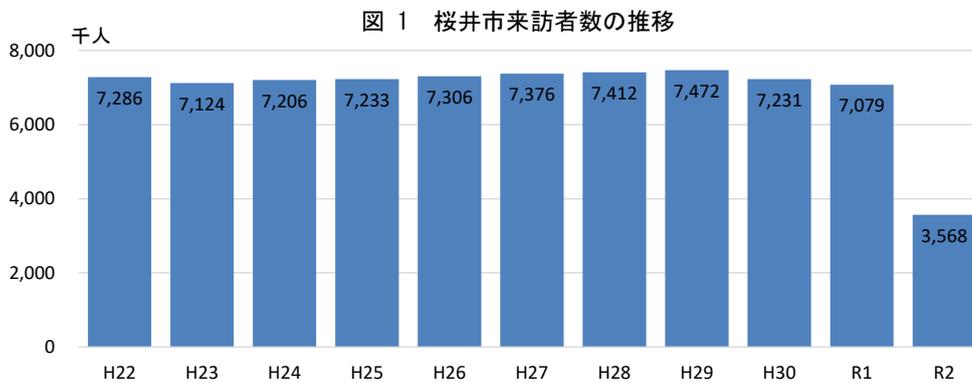
(2) 観光特性

■ 来訪者数

桜井市には令和元年まで年間約700万人^{*}の来訪者数で推移しており、その多くを大神神社が占めています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で前年度比50%、約350万人に落ち込みました。

月別の来訪者数を、新型コロナウイルス感染症の影響がない令和元年度で見ると1月の大神神社が突出しており、初詣客による増加と考えられます。また、春の花見、秋の紅葉シーズンにやや増加します。



市内には社寺以外にも豊富な歴史文化遺産・自然資源等がありますが、来訪者の数には偏りがあることから、観光での効果的な各資源の活用において余地があると言えます。

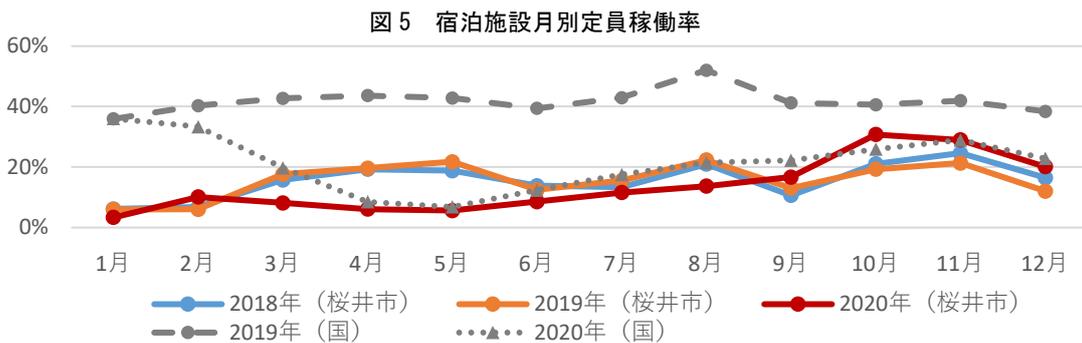
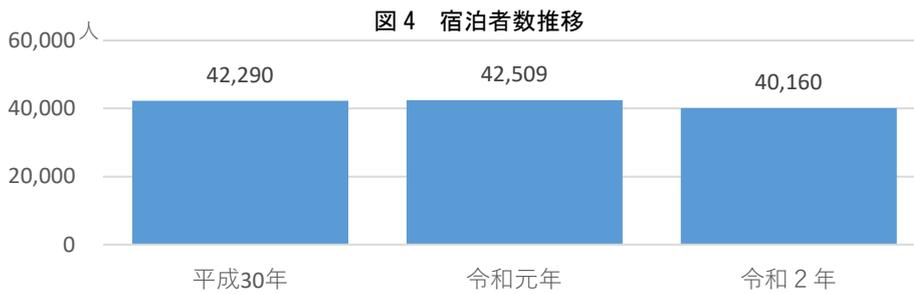
※各施設の独自集計結果及び市内イベントの参加人数の数値を積み上げたもの



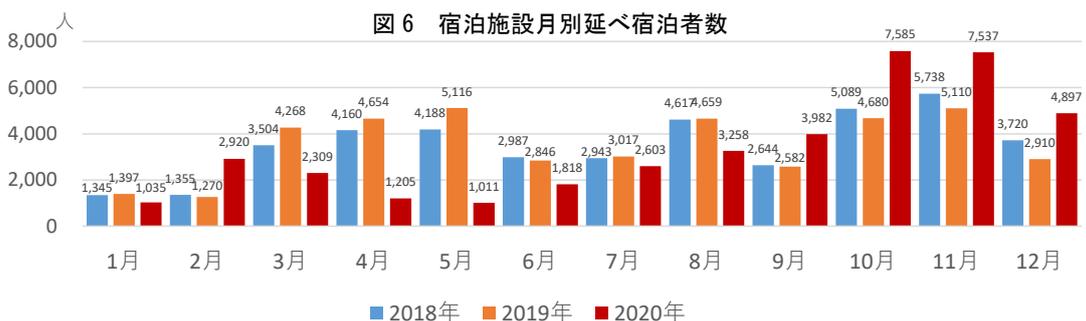
■ 宿泊施設

平成30年度に施行された民泊新法により市内の民泊施設数が増加しており、令和2年時点で30軒となっています。

一方で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度は国の「GoTo トラベルキャンペーン」及び桜井市の「桜井泊まってエンジョイキャンペーン」が始まった10月11月に稼働率が上がったものの、宿泊者数は伸びず、年間40,000人程度となっています。



出典：国⇒宿泊旅行統計調査 延べ宿泊者数／総収容人数



2-2 第1期桜井市観光基本計画の検証

基本目標「市民が桜井市の歴史や食や文化を深く理解し、その魅力を発信することで、来訪者は市内をめぐりながら地域との交流のなかで観光を楽しんでいる。」とし、5つの基本方針ごとに設定した90のアクションプランの取り組みを進めてきました。

そのうち77% (69) のアクションプランに取り組みました。主な成果は、「大和さくらいブランド認定」、「そうめん条例の制定」「インバウンド・国内富裕層対象旅行商品造成」、「めぐる桜井発行」などです。

一方で10% (9) は取り組みができませんでした。13% (12) は、取り組みはあるものの計画通りではないものです。

図7 第1期桜井市観光基本計画アクションプランの取り組み実績

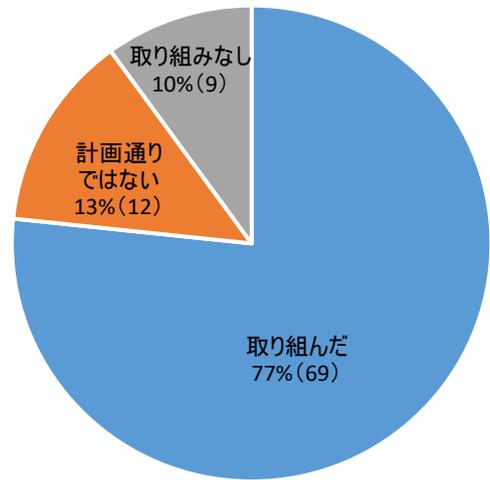
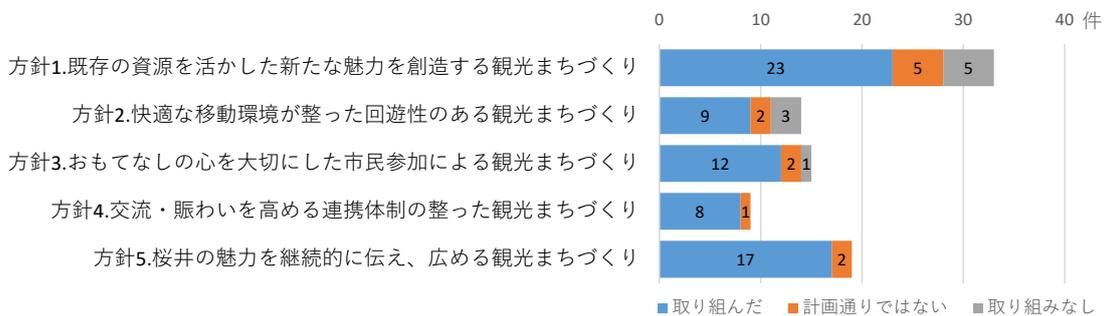


図8 第1期桜井市観光基本計画アクションプランの5つの基本方針別の取り組み実績



2つ設定した数値目標のうち、「観光振興」施策に関する市民意識調査において達成されたと感じる市民の割合」は達成できませんでしたが「産業連携を促す観光企画の実践数」は達成しています。

指標名	指標の説明	現状値 (H23年)	目標値 (R2年)	R2年実績	達成率
「観光の振興」が達成されたと感じる市民の割合	「観光振興」施策に関する市民意識調査において達成されたと感じる市民の割合	45.6%	70%	45.1%	-0.5%
産業連携を促す観光企画の実践数	観光客ニーズに対応するために各産業の連携を促す企画を提示(9年間の累計)	0企画	15企画	16企画	106%

以上のように、第1期桜井市観光基本計画では成果が見られるものの、残された取り組みもあります。

第1期桜井市観光基本計画 アクションプラン 取り組み状況一覧

施策	アクションプラン概要	現状		
1 既存の資源を活かした新たな観光を創造する観光まちづくり	1-1 観光資源の魅力向上方策の推進	1 歴史・文化資源の維持管理や史跡の整備を官民が協力し継続的に進める。 2 「卑弥呼の里・桜井ふるさと寄附金」の取り組みを推進する。 3 地域伝統の技、手仕事を見学できる「まちかど博物館」を認定し公開する。	○ ○ ×	
	1-2 纏向遺跡周辺の整備	4 見学者に対する駐車場などの整備検討を進め、新たな観光拠点として位置づける。	×	
	2-1 市民による資源の発掘	5 「(仮称)桜井市の景観100選」写真コンテストなどによる新たな観光名所を募集する。	○	
		6 市の象徴の三輪山は、景観計画と整合を図りながら眺望点の選定などを検討する。	○	
		7 地域住民による手づくりの観光マップづくりを支援する。	○	
	2-2 食や土産物など新たな観光商品の開発	8 地元食材のレシピや工芸品づくりなど、新たな観光商品の研究・開発を進める。	△	
		9 伝統産業のPRと情報発信の強化、お菓子や土産物の商品化の検討を進める。 10 イベント時の土産物等即売会、菓子など食コンテスト開催や商品化の検討を進める。 11 飲食店とタイアップした新たな観光メニューをつくる。	○ ○ △	
	2-3 花と緑による潤いのある観光地づくり	12 農地を活用した菜の花畑やコスモス畑など、花畑の整備を検討する。	○	
	2-4 温浴施設誘致の検討	13 観光客や市民が楽しめる温浴施設の誘致に向けた検討を進める。	×	
	2-5 夕夜間の観光メニューの開発	14 二上山に沈む夕日や建築物のライトアップなど夜を演出した新たな観光企画を進める。	○	
	2-6 ものづくり体験、伝統文化体験	15 地域伝統の技、手仕事を気軽に体験できる観光メニューの開発を促進する。	○	
		16 まつり体験、火起こし体験の実施など、新たな体験プログラムの開発を進める。 17 商店街の空き店舗活用や事業者の作業場の借用など体験場所の確保を進める。	○ △	
	2-7 野菜づくり・果物狩りなど	18 農業関係者の協力を得て大和野菜づくりなど体験メニューの開発を促進する。	○	
		2-8 自然体験、自然観察	19 自然環境を活かした観光メニューをNPOや市民ボランティアの協力で開発する。 20 自然素材を活かした工芸品制作やアート創作が体験できる取り組みを進める。	○ ○
	2-9 健康・グルメ		21 広域連携によるウォーキングなど年齢層や体力に応じた市内周遊コースの提案を行う。 22 地元飲食店の協賛による「食」のマップやスタンプラリーを実施する。	○ ○
		2-10 観光資源としての産業の発掘と活用	23 ターゲット層を明確にした多様な宿泊ニーズに広域連携で対応する。	○
			24 営農者の協力を得ながら、遊休農地などを活用した観光農園の整備を進める。 25 公民館などの公共施設や古民家、農家、空き家を活用した体験施設の整備を進める。	×
	26 市内の産業施設に観光客を受入れる体制づくりの推進や学校教育に向けたPRを行う。		△	
	27 産業資源の発掘や活用に努める。伝統産業の資源を観光施策に有効活用する。		○	
	3-1 既存のイベントや施設の活用	28 朝市やイベントの開催による特産品、土産物の販売を促進する。 29 奈良県の観光アンテナショップなどを利用した特産品、土産物のPRや販売を促進する。	○ ○	
3-2 付加価値の創出		30 地元の食材を使用した食やレシピの開発・紹介、新たな名産品、名物料理、土産物の開発を、産学官や異業種間の交流によって進める。 31 “さくらい”や“卑弥呼”などの名称と商品名との結びつけによるブランド力の強化や、地元食材を活かした官民協働によるブランド開発を図る。 32 地場産業を活かしたブランド開発に対する行政支援を検討する。	△ ○ ○	
	4-1 ブランドの開発	33 市のマスコットキャラクター「ひみこちゃん」のデザインをフルに活用し、特産品とのタイアップによる多様なブランドづくりを促進する。	○	
○				
4-2 マスコットキャラクターの活用	34 観光タクシーの利用促進とPRを図る。 35 観光客だけでなく市民にとっても利便性に優れた移動環境の充実を目指す。 36 「市内1日観光フリーパス」や「料金割引制度」の導入を検討する。	○ ×		
		×		
2 快適な移動環境が整った回遊性のある観光まちづくり	1-1 公共交通機関の利便性の向上	37 レンタサイクルの利用促進を引き続き実施する。	○	
		38 駐車場の整備を進めるほか、パークアンドサイクルライドの導入を検討する。	○	
	1-2 自動車、自転車利用のサービス向上	39 道路や各観光施設における誰にもわかりやすい誘導案内施設整備を図る。 40 携帯電話の位置情報サービスを活用した観光案内の促進を図る。	○ ○	
			○	
	1-3 誘導案内施設の整備	41 観光案内所は既存施設の充実を図る。「道の駅」の設置を検討する。 42 鉄道駅、公共施設、主要な観光施設、観光センター、空き家を活用した「まちかど観光案内所」や「まちかど休憩所」の設置を関係機関とともに推進する。	×	
			○	
	1-4 観光案内所などの整備	43 山の辺の道など、歴史的風情を感じる景観の保全と活用を進める。 44 観光施設、主要観光ルートのバリアフリー化の推進、バリアフリー情報の提供を図る。	○ △	
			○	
	1-5 観光ルートの整備	45 観光客ニーズや地域の神話や伝承を参考にテーマを明確にしたストーリー性のある周遊観光コースの開発を観光事業者などと連携して推進する。 46 楽しみながら市内の観光地を周遊することができる観光コースの開発を推進する。 47 山の辺の道等の散策ルートのゴール地点となるよう工夫して新たな消費を誘発する。	○ ○ △	
			○	
○				

取り組み状況の凡例 ○…取り組んだ、△…計画通りではない、×…取り組みなし

第1期桜井市観光基本計画 アクションプラン 取り組み状況一覧

施策	アクションプラン概要	現状		
3 おもてなしの心を大切にした市民参加による観光まちづくり	1-1 市民意識の醸成	48 メールマガジンやマスコットキャラクター活用など市民意識醸成を図る。 49 ホームページ等での観光資源紹介や「桜井検定」など市民意識醸成を図る。 50 学校における農業体験や職場体験学習の充実などの教育プログラムを推進する。 51 トイレの提供や「まちかどカフェ」などの施設を民間の協力を得ながら整備する。	○ ○ ○ ○	
	1-2 市民・観光関係者によるおもてなし活動の向上	52 おもてなし意識の啓発、「おもてなし運動」の立ち上げを支援する。	○	
		53 観光ボランティアガイドのさらなる育成・強化を図る。	○	
		54 送迎・移動介助が必要な方に対するガイドサポート(有償サービス)の組織づくりを行う。	△	
		55 体験観光インストラクターなど、様々な観光シーンに対応できる人材の育成を図る。	×	
	1-3 観光資源の評価・検証	56 おもてなし活動に取り組む関連団体への活動支援を行う。	○	
		57 観光客へのアンケートやヒアリング調査を実施し基礎データの収集や評価を行う。	○	
	2-1 地域の景観基準づくり	58 本市の観光情報サイトの閲覧状況を分析し、観光施策の基礎データとして活用を図る。	○	
	2-2 花や緑による楽しい散策ルートの整備など	59 地域独自の景観形成の基準を定めるとともに、地域住民の協力によって、歴史的なまちなみと調和した建築物の意匠の誘導や、地場産材を用いた看板の設置を促進する。	○	
	2-3 市民の協力によるトイレや休憩所の維持管理	60 美化活動の推進、河川敷や街道を活かした遊歩道の整備、沿道建物の修景や既設の草花など地域特性に応じた景観配慮による楽しい散策ルートを創出する。	○	
		61 トイレや休憩所が不足している地域では、店舗のトイレ利用を協力を働きかける。 62 観光地のトイレについては市民やボランティアの協力により適正な維持管理に努める。	△ ○	
	4 交流・賑わいを高める連携体制の整った観光まちづくり	1-1 広域連携体制の強化とPR	63 桜井市、橿原市、明日香村、奈良県の連携による世界遺産登録を推進する。 64 山の辺の道美化促進協議会など、広域観光推進体制の取組の継続及び充実を図る。 65 鉄道会社主催のウォーキングイベント等と連携を強化し効果的な観光客の誘導を図る。	○ ○ ○
1-2 広域圏での観光ルートなどの開発や提案		66 天理市、橿原市、明日香村など、歴史、文化的に関連性の深い自治体との広域圏を対象とした滞在型観光や周遊観光コースの開発、及び観光資源のネットワーク化を進める。	○	
1-3 記紀・万葉プロジェクトの取組への積極的な参画と連携強化		67 奈良県が進める「記紀・万葉プロジェクト」は歴史的にも深く係わることから、県をはじめ関係市町村との連携体制を強化しながら積極的に参画し観光の魅力向上を図る。	○	
2-1 観光基本計画推進体制の確立		68 観光施策の調整や円滑な推進を図るため、市民代表、事業者、行政が一体となった協働による推進体制の確立を図る。	○	
		69 観光事業の一体的な展開を図るため、観光協会の組織充実や自主的な発案による取り組みの促進を図り、観光事業者や関係団体との連携を強化する。	○	
2-2 観光協会の組織の充実及び観光関係団体との連携の促進		70 伝統的な祭りやイベントは、一過性ではなく広くPRする。物産品の即売会の開催や観光施設の紹介を図り、相乗効果が発揮できるよう努める。	○	
		71 市内の歴史的な道筋を利用したアート作品の展示など新たなイベントの企画を検討する。	△	
5 桜井の魅力を持続的に伝え、広める観光まちづくり		1-1 情報通信技術を活用した情報発信手法の拡充	72 インターネット、カーナビゲーションなど、様々な観光情報の配信手法を拡充する。 73 本市の観光情報サイトはポータルサイトとして機能強化を図るほか、使いやすさ、見易さへの配慮、また、他の観光サイトとの連携に向けた検討を進める。 74 携帯電話の位置情報サービスを活用した観光案内を促進する。	○ ○ ○
		1-2 多様な媒体を活用した情報の提供	75 最新のデジタル機器で効果的な情報提供に努めるほか、マスメディアに観光情報を提供する。またフィルムコミッションの活用など積極的に取材を働きかける。	○
			76 観光資源情報を市民モニターから収集するなど市民参加による情報の収集を行う。 77 紅葉情報などの日々変化する状況を、市民や関係機関との連携により配信する。	△ ○
	1-3 市民モニターの活用	78 障害者や外国人にも利用しやすい情報バリアフリー化に努める。多言語表記の観光案内板等の充実や視覚障害者に配慮した文字の大きいガイドブックや点字表記の拡充に努める。	○	
	1-4 様々な手法による案内情報の提供	79 「奈良まほろば館(奈良県東京事務所)」や大型商業施設での、広域行政組織の連携による観光PRコーナーの設置など、広範囲にわたった観光情報の発信を進める。 80 関係市町村で開催される祭りやイベント開催時に合わせた本市の観光資源紹介など相互連携による観光情報の発信を進める。	○ ○	
		81 顧客のターゲットを絞り込み、その志向に応じた情報発信の強化を図る。 82 グリーンツーリズムなど新たな観光に着目した情報の発信を図る。 83 邪馬台国をテーマとした講演会やシンポジウムの誘致を推進する。 84 観光商品やコンベンション企画商品の開発を検討する。	○ ○ ○ ○	
	2-1 ターゲットや志向に応じた情報発信の強化	85 マスコットキャラクターを最大限活用し、情報発信、PRを行う。フィルムコミッションの充実・強化など映画、テレビなどのマスメディアを活用した情報発信力を強化する。	○	
		86 市長や市職員はもとより、本市にゆかりのある著名人、観光施設関係者、商店主なども含めた、全市民が観光客誘致に向けた営業員としてPRする取り組みを推進する。 87 マスコミへの情報発信、マスコミや旅行会社の招致、ポスターなどによる広報宣伝を推進する。また、フォトライブラリー、ビデオ、地域情報紙などの情報素材を有効に活用する。	○ ○	
	2-2 効果的な情報の発信	88 隣接市町村や宿泊施設等と連携して観光キャンペーンやキャラバン活動を積極的に展開する。マーケット圏域を考慮した対象地域を定め、重点的にPR活動を推進する。 89 観光に関わる専門家や、外部からの専門家の招聘を通じて計画的なプロモーションを展開する。修学旅行、歴史教育旅行の誘導促進を図る。	○ ○	
		90 芝運動公園などのスポーツ施設を活用したイベント、スポーツ大会、合宿の誘致を図る。	△	
				○

取り組み状況の凡例 ○…取り組んだ、△…計画通りではない、×…取り組みなし



2-3 桜井市の観光の課題

(1) SWOT分析

桜井市の観光課題を抽出、整理するにあたり SWOT 分析※を活用しました。

		外部環境要因	
		O：機会（追い風）	T：脅威（向い風）
内部環境要因	S・強み	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心への関心の高まりなど価値観の変化 ・国内旅行への回帰、アウトドアニーズの高まり ・オンライン化、デジタル化 ・ふるさと納税の多様化 ・アフターコロナの観光需要 ・SNS等旅行情報の多様化 ・令和7年日本国際博覧会 ・SDGs・多様性への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・景気の悪化 ・新型コロナウイルスの影響の長期化 ・旅行市場縮小 ・団体旅行の減少 ・インバウンドの減少 ・少子高齢化、人口減少
		<p>強みを生かす観光に必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化資源を守る ・歴史的価値をわかりやすく伝える（最新情報技術の有効活用） ・街道等を歩きたくなるしかけ ・歴史性（聖地）にふさわしい心身の健康・美につながる観光商品（体験・食・土産物） 	<p>強みを活かして脅威を避けるために観光に必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜井の歴史・文化資源のファンを「桜井ファン」に育てる仕組み ・市民の参加
	W・弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・太古の文化より息づいている潜在的な歴史性 ・大神神社、長谷寺など豊富な歴史的観光資源の存在 ・纏向遺跡で卑弥呼と同時代の大型建物跡が発掘 ・観光ネットワークの構築の基礎となりうる多くの街道の存在 ・豊かな伝統芸能、祭り・イベントなど伝統文化の多さ ・四季を通じて美しいのどかな歴史的景観や自然的景観 ・歴史を踏まえた地域の祭りなど住民に根付いている文化 【特産品】 ・ブランド力「三輪そうめん」の存在 ・質の高い木製品など存在 ・柿など農産物の存在 【組織】 ・観光協会・NPO法人など観光関連団体の充実 	<p>弱みを克服する観光に必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりによる地域経済の誘引 ・食文化の展開（単価UP・地域資源の有効活用） ・経済効果を誘引する宿泊施設の量確保 ・EC（ネット通販）・ふるさと納税の有効活用 ・観光DXの推進 ・効果的な他組織との連携
		<ul style="list-style-type: none"> ・消費額をあげる観光商品が少ない（単価が安い・地域資源未活用） ・時代のニーズを捉えた多様なサービスが提供可能な宿泊施設が少ない ・歴史資源による地域経済効果の誘引が弱い ・マーケティングが不十分 ・インバウンドの対応不足 【観光施設等】 ・道の駅のような拠点施設がない ・多様性への対応が不十分（バリアフリー化、多言語化未対応） 【観光組織連携】 ・観光関連団体間の連携不足 ・不十分な市内観光資源間の連携、近隣市町村などとの連携 【市全体の状況】 ・後継者不足による空き家・空き店舗の増加 ・市の財政力の悪化 ・少子化、若い人の少なさ 	<p>弱み対策で脅威を避けるために観光に必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰でも安心して観光できる環境 ・安全・安心の徹底（安心・健康） ・アフターコロナにおけるインバウンド対応準備 ・空き家等を活用した滞在型の観光促進 ・市民の参加

※SWOT分析とは：組織の内外の要因を分析してビジョンや戦略を立案する手法で、一般的には企業などが経営戦略を立案する際に、経営環境を分析するための手法として活用されています。SWOT分析は内的要因としての組織（ここでは観光）の強み（Strength）と弱み（Weakness）を、外的要因として組織（観光）をとりまく機会（Opportunity）と脅威（Threat）を整理し、諸要素の関連から客観的に分析を行い、最適な戦略を導き出すものです。

(2) 桜井市の観光の課題

桜井市の観光を取り巻く現状について、強みを生かし弱みを克服する観光を展開する上での課題を以下に整理します。

①歴史・自然資源等を生かした「聖地」「文化」といった価値の保存・継承と活用

桜井市の歴史資源は市外からも人を引きつける「聖地」であり、文化財としても本質的な価値を有しています。また、これらの歴史性を踏まえて地域住民で取り組む祭りなどは、次世代に歴史文化を継承する上でも意義あるものであり、桜井市の魅力となっています。

この歴史資源等の魅力を保存・継承し、「聖地」「文化」を地域内外の人が楽しめる継続した環境づくりが必要です。



大神神社



亥の子暴れまつり



大和さくらい100選

②ほんものを感じる体験型観光の強化

桜井市の歴史資源を生かした観光を展開するためには、その価値・魅力をわかりやすく伝え、感じていただくことが有効です。

歴史資源や文化に関する「体験」の提供や、街道等を歩きたくなる仕掛けづくりとともに、最新情報技術の有効活用により現地で感じ取れる多様な感動を提供するなど、魅力がよくわかる「体験」に重点を置いた展開が必要です。



山の辺の道



三輪そうめん



③時代のニーズを捉えた観光商品の展開

新型コロナウイルス感染症の流行を契機に「心身の健康」のニーズが高まっていることから、桜井市の歴史資源の特性を生かし、「心身の健康」に着目した観光商品（食・土産物）が有効だと考えられます。

商品化においては、地域毎に特性を打ち出したまちづくりの視点で地域が一体になって商品化に取り組んだり、他の団体との連携で進めることで、地域経済の誘引が期待できます。

また、ふるさと納税の有効活用や EC など販売チャンネルの充実が必要です。



桜井市ふるさと納税 Instagram

④「安全・安心」と「多様性」への対応

新型コロナウイルス感染症の流行を契機に高まる安全・安心意識に対応できる観光地になるためには、事業者を中心に地域一体での取り組みが必要です。これらの一環として非接触型観光に取り組むことで蓄積される多様な情報は、観光事業の展開に有効に活用する必要があります。

また、SDGs や多様性など社会的に求められるニーズに対応した観光地となるために、誰でも安心して観光できる環境の整備や、アフターコロナにおけるインバウンド対応の準備が必要です。



災害時に訪日外国人旅行者への情報提供に役立つツール紹介サイト（観光庁）

⑤市民の愛着醸成や関係人口の増加など市の活力につながる観光の展開

例えば、観光をきっかけに桜井市のファンになった方が、多様な方法で関りを深める仕組みがあることで、観光にとどまらない関係の構築（関係人口）が期待できます。このような「桜井ファン」が、何度も桜井市を訪れ滞在し、暮らしているかのように地域と関わることでできる環境をつくることで、持続的な地域経済の活性化につながる観光の展開が期待できます。



東京フォーラムⅦ「卑弥呼」発見！

第3章 計画の基本方針

(1) 目指すべき将来像

観光の原点は、聖地を訪問する巡礼「ツール」に由来し、古代より物質的な豊かさに加えて、精神的な充足を人々が求めたことにあると考えられます。桜井市は、この観光の原点と言える古代より続く自然の姿と信仰、歴史や食文化といった個性を有しています。

今、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機に働き方、人とのつながり、健康など生き方を見直す機運が高まり、観光においても精神的・身体的な健康への関心が高まっていることから、本計画では、以下を将来像に設定します。

目指すべき将来像

自然につつまれ、神を感じて、 御仏に会える癒やしの里“桜井”

古代の日本＝大和の国の中心地として選ばれた、文化に裏付けられた自然。

古事記や日本書紀にも記された、日本最古の神社のご神体「三輪山」に鎮まる国造りの神。

市内の多くの御寺におわす、国宝として指定された観音菩薩に代表される御仏。

桜井市は古代より続く自然の姿と信仰、歴史や食文化といった人々を癒やす資源を有しています。

“モノ”から“コト”を重視する流れの中で、これらの個性は国内外から人々をひきつけることから、桜井市ならではの「癒やしの里」をテーマにしたオンリーワンの地域創造を展開します。

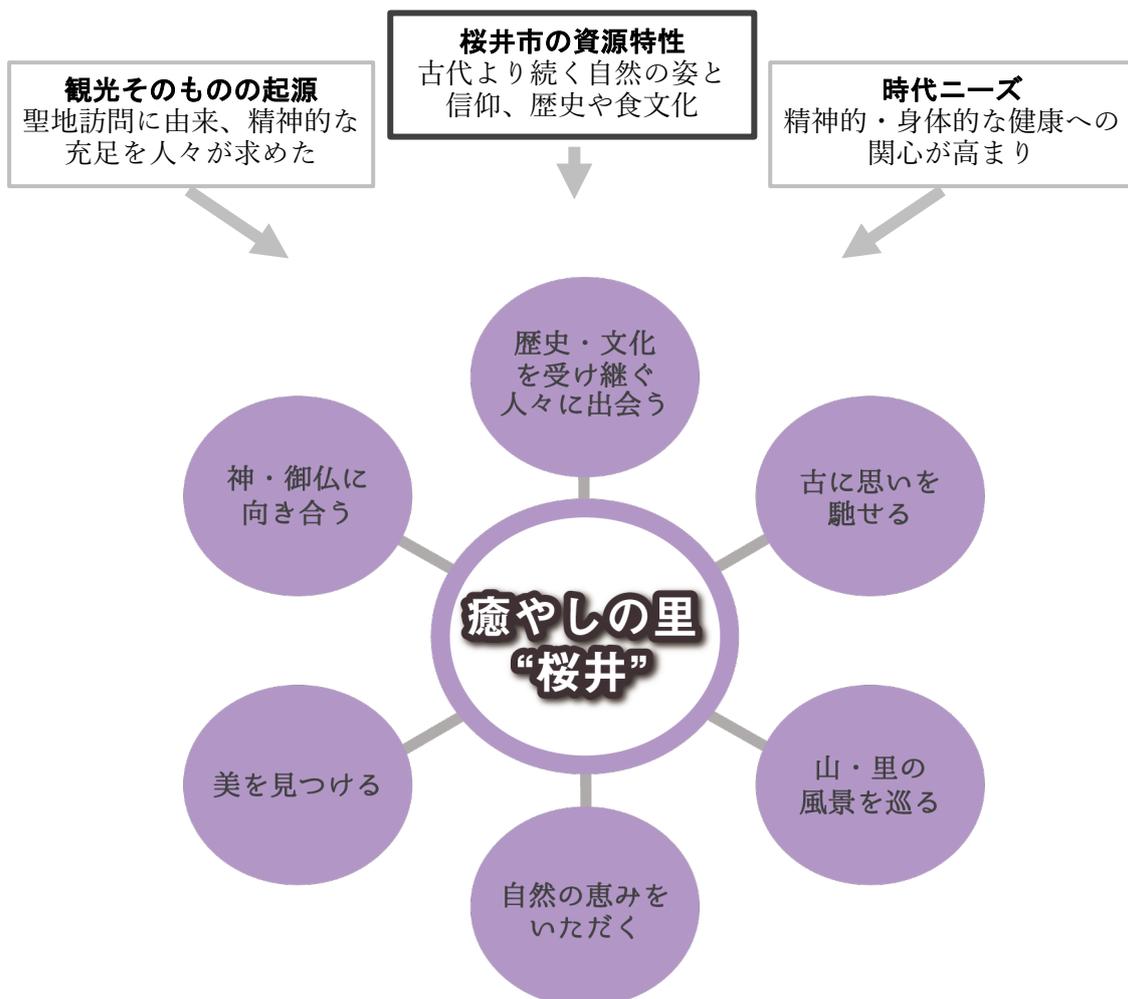
なお、第6次桜井市総合計画の将来都市像「はじまりの地から未来へ 歴史と自然がいきづく万葉のふるさと 桜井」には、古代ヤマト王権発祥の地、山々に囲まれたのどかな田園風景など、桜井市の歴史文化資源を次世代につなぐ意思が込められています。第2期桜井市観光基本計画ではこれを受け、次世代につながる資源が、観光される皆様にもたらす「癒やし」に着目した将来像を設定しました。



癒やしには、桜井の観光資源に触れたり・観光資源と一体となったサービスを受けることにより五感で感じたり、心身に作用するものがあります。

以下に挙げた桜井の資源がもたらす癒やしの他にも、市民等が日頃感じている癒やしが何か、改めて暮らしの中での桜井の資源を見つめなおすことが求められます。

図9 「癒やしの里“桜井”」のイメージ



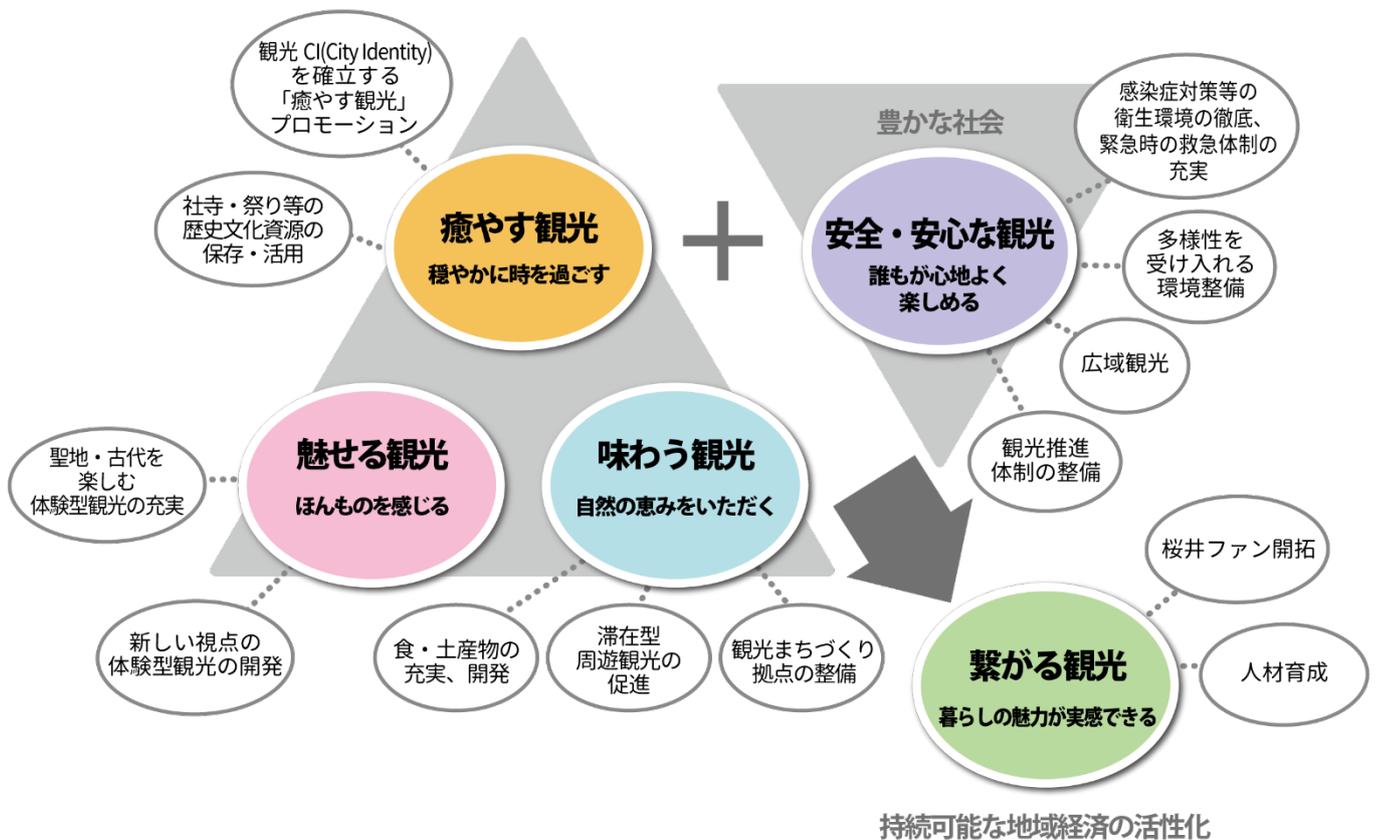
(2) 基本方針

「癒やしの里」として心を豊かにする「癒やす」「魅せる」「味わう」観光を展開するとともに、市民、事業者、行政が一体となって多様性に富んだ安全・安心に観光できる「豊かな社会基盤」を形成します。

これにより、市民はもとより多くの人々が「桜井ファン」となって市内各所で多様な活動を展開する「繋がる」観光を盛んにして、持続可能な地域経済の活性化につなげます。

(なお、全ての取り組みはSDGs（持続可能な開発目標）の達成につながる取り組みとします。)

図10 自然につつまれ、神を感じて、御仏に会える癒やしの里“桜井”を目指す取り組みの基本方針





基本方針1 癒やす観光（穏やかに時を過ごす）

「癒やす観光」は桜井観光のシティアイデンティティとし、プロモーションを展開します。また、社寺・祭り等歴史文化資源を保存し、活用します。

基本方針2 魅せる観光（ほんものを感じる）

「聖地」「古代」をテーマに体験を重視した観光商品の充実に取り組むとともに、新しい体験型観光商品の開発を推進します。

基本方針3 味わう観光（自然の恵みをいただく）

心身の健康に着目して各地域の特性を打ち出した商品の開発や観光商品化（食・土産物）の展開を推進します。

また、これらの商品をたくさん楽しんでいただけるよう、滞在型の周遊観光の促進や観光拠点周辺が一体となったまちづくりに取り組みます。

基本方針4 安全・安心な観光（誰もが心地よく楽しめる）

事業者を中心に地域一体で感染症対策をはじめとした安全・安心の観光地づくりを進めるとともに、多様性を受け入れる環境整備を進めます。

また、周辺地域との連携強化による広域観光の推進と、観光振興の取り組みを進める市全体の観光振興体制の整備・充実を進めます。

基本方針5 繋がる観光（暮らしの魅力が実感できる）

桜井市に興味を持った「桜井ファン」が、地域愛を深め、新たな観光を創造できる取り組みを進めます。

また、人材を育成し、持続可能な地域経済の活性化に繋がります。



第4章 施策

4-1 施策体系

自然につつまれ、神を感じて、御仏に会える癒やしの里“桜井”

癒やす観光

穏やかに時を過ごす

「癒やす観光」は桜井観光のシティアイデンティティとし、プロモーションを展開する。
また、社寺・祭り等歴史文化資源の保存と活用を行う。

1. 観光 CI (City Identity) を確立する「癒やす観光」プロモーション

- ①既存の「癒やす観光」コンテンツを整理
- ②新規の「癒やす観光」コンテンツ造成の促進
- ③「癒やす観光」のPR展開
- ④「癒やす観光」PRの総括イベントの実施

2. 社寺・祭り等歴史文化資源の保存・活用

- ①地域の文化の保護・継承の取り組み
- ②纏向遺跡の整備・保存・活用
- ③文化財の保護、歴史的風土や景観の保全・修復

魅せる観光

ほんものを感じる

「聖地」「古代」をテーマに体験を重視した観光商品の充実に取り組みとともに、新しい体験型観光商品の開発を推進する。

1. 聖地・古代を楽しむ体験型観光の充実

- ①山の辺の道を核とした着地型観光の推進
- ②専門性の高い体験型観光コンテンツの開発

2. 新しい視点の体験型観光の開発

- ①新たな体験型観光コンテンツの検討・造成

味わう観光

自然の恵みをいただく

心身の健康に着目して各地域の特性を打ち出した商品の開発や観光商品化（食・土産物）の展開を推進する。
また、これらの商品をたくさん楽しんでいただけるよう、滞在型の周遊観光の促進や観光拠点周辺が一体となったまちづくりに取り組む。

1. 食・土産物の充実、開発

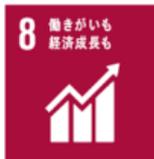
- ①特産品の開発及び特産品を活用した誘客促進
- ②農産品の開発補助・啓発
- ③三輪そうめんの啓発
- ④ふるさと納税の推進

2. 滞在型周遊観光の推進

- ①滞在型観光の推進
- ②周遊観光の推進

3. 観光まちづくり拠点の整備

- ①桜井駅周辺地区のまちづくり
- ②長谷寺門前町周辺地区のまちづくり
- ③大神神社参道周辺地区のまちづくり



各施策は、持続可能な開発目標（SDGs）のうち左の5つのゴールとの関係性を意識しながら取り組みます。詳しい解説は p36 を参照。

安全・安心な観光

誰もが心地よく楽しめる

事業者を中心に地域一体で感染症対策をはじめとした安全・安心の観光地づくりを進めるとともに、多様性を受け入れる環境整備を進める。

周辺地域との連携強化による広域観光の推進と、観光振興の取り組む市全体の観光振興体制の整備・充実を進める。

1. 感染症対策等の衛生環境の徹底、緊急時の救急体制の充実

- ① 感染症対策等の衛生環境の徹底
- ② 緊急時の救急体制の充実

2. 多様性を受け入れる環境整備

- ① 利便性向上のための環境整備
- ② 外国人観光客に対応した環境の整備
- ③ 快適に観光を楽しむことができる観光案内

3. 広域観光

- ① 世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会事業
- ② 市外団体との各種連携事業
- ③ 奈良県との観光連携事業

4. 観光推進体制の整備・充実

- ① (一社) 桜井市観光協会との連携
- ② 桜井市観光ボランティアガイドの会との連携
- ③ 桜井観光案内所の運営
- ④ 初瀬観光センターの運営

繋がる観光

暮らしの魅力が実感できる

桜井市に興味を持った「桜井ファン」が、地域愛を深め、新たな観光を創造できる取り組みを進める。

また、人材を育成し、持続可能な地域経済の活性化に繋げる。

1. 桜井ファン開拓

- ① 桜井ファン開拓のための情報発信
- ② 桜井市マスコットキャラクター「ひみこちゃん」の活用
- ③ マスメディアを活用した効果的な情報発信
- ④ 観光 DX*の推進

2. 人材育成

- ① 観光人材の育成
- ② 観光関連団体及び事業者との連携強化

※観光 DX：観光におけるデジタルトランスフォーメーション。データから社会のニーズを炙り出し、新たなサービスやビジネスモデルを生み出す。

4-2 観光推進施策

基本方針1 穏やかに時を過ごす癒やす観光

「癒やす観光」は桜井観光のシティアイデンティティとし、プロモーションを展開するとともに、社寺・祭り等歴史文化資源の保存と活用を行います。

(1) 観光CI(City Identity)を確立する「癒やす観光」プロモーション

令和4年度から新たな桜井市の観光方針として設定する「癒やす観光」を推進するためのプロモーションを行います。

具体的には、既存の「癒やす観光」コンテンツの整理と、新規の「癒やす観光」コンテンツの開発支援、さらに「癒やしの里“桜井”」の知名度向上のためのプロモーションに取り組みます。

本施策を第2期桜井市観光基本計画の重点施策とし、「癒やす観光」のプロモーションを優先的に行っていきます。

①既存の「癒やす観光」コンテンツを整理

「癒やし」に着目し、既存資源を整理して、強い集客につながるコンテンツを整理する。

②新規の「癒やす観光」コンテンツ造成の促進

時代の流れやターゲット等新たな観光ニーズ等に対応する新規の「癒やす観光」商品化を促進する。

③「癒やす観光」のPR展開

市内の「癒やす観光」コンテンツを活用し、「癒やしの里“桜井”」のプロモーションを行う。

④「癒やす観光」PRの総括イベントの実施

本計画期間の最終年度である令和8年度に、「癒やしの里“桜井”」PRの総括として誘客イベントを実施する。なお、令和8年度は桜井市制70周年となるため、本イベントは記念事業として実施する。



(2) 社寺・祭り等歴史文化資源の保存・活用

社寺や歴史資源の保存と価値向上及び活用を推進するとともに、祭礼・行事等を継承します。

①地域の文化の保護・継承の取り組み

寺社単位の祭事や地域に根差した市民によるお祭り、出雲人形などの伝統文化を保護するための支援を行うほか、情報発信など文化の継承に繋がる取り組みを行う。

また、「大和さくらい万葉まつり」等地域団体の活動支援を行う。



大和さくらい万葉まつり

②纏向遺跡の整備・保存・活用

古墳時代前期の大規模な集落遺跡である纏向遺跡は、わが国の古代国家形成期の状況を知る上で極めて重要な歴史文化資源である。平成25年には国の史跡に指定されており、将来にわたって遺跡を保護するとともに、より多くの方々に魅力を体感していただくために、史跡の公有化と活用拠点としてのガイダンス施設や史跡公園の整備を目指す。



史跡纏向遺跡

③文化財の保護、歴史的風土や景観の保全・修復

市内文化財の実態把握、文化財指定等による保存活用、文化財の保護啓発を行うとともに、埋蔵文化財センターでは発掘調査成果などの魅力ある情報を発信する。

風致地区においては、良好な自然的景観の保全を図る。

市内に点在する万葉歌碑は、保全し、案内サインの設置、パンフレットやホームページを通じた情報発信により、「記紀万葉のふるさと 桜井市」のPRを行う。



三輪のまちなみ

基本方針2 ほんものを感じる魅せる観光

「聖地」「古代」をテーマに体験を重視した観光商品の充実に取り組むとともに、新しい体験型観光商品の開発を推進します。

(1) 聖地・古代を楽しむ体験型観光の充実

各社寺等聖地での癒やし機会の提供などの「聖地体験」、古事記や日本書紀・万葉集に描かれた「古代体験」など、既存の観光資源を生かした体験型観光を充実します。

①山の辺の道を核とした着地型観光の推進

山の辺の道の利便性向上を目指し、天理市と協同で「クリーンハイク」や「クリーンキャンペーン」などにより美化を促進する。

また、「なら歴史芸術文化村」及び「NAFIC（なら食と農の魅力創造国際大学校）※」を核とした山の辺の道周辺農村地域等の賑わい創出と地域活性化を目指し、奈良県と連携し、食と農のツーリズムを中心とした戦略に取り組む。

基本方針1の「癒やす観光」を推進すべく、魅力を活かしたコンテンツ造成を促進する。



山の辺の道

②専門性の高い体験型観光コンテンツの開発

桜井市には深い歴史や日本の文化そのものを表す観光地が多くあり、「学び、体験する」ことで観光客に魅力を発見・再発見していただける。これらを生かした歴史や日本の文化を深掘りできる体験型観光コンテンツ開発を目指して、専門家を招いた講演会等を開催するとともに、専門性の高い旅行商品・ツアー等を実施する。



夏季大学



(2) 新しい視点の体験型観光の開発

NAFIC 等桜井市の有する基盤を有効に活用し、ガストロノミーツーリズム、アグリツーリズム、サイクルツーリズム、農泊に代表されるような、新しい視点の体験型観光の開発を推進します。

①新たな観光コンテンツの検討・造成

先端技術等を活用し、平面的な遺構表示が中心である山田寺跡・纏向遺跡の復元建物や発掘調査時の臨場感を伝えるサービスを提供することで、文化財を活用した地域活性化の好循環につなげる。

“体験型観光”ニーズに対応するため、桜井市の個性豊かな文化の体験ができる着地型旅行商品の造成・販売を推進する。

また、NAFIC 周辺賑わいづくり協議会による地域活性化を目指す取り組みに対し、関係機関と協力しながら with コロナ時代に適応した情報発信を進める。



オーベルジュ・ド・ぶれざんす 桜井

- ※ NAFIC（なら食と農の魅力創造国際大学校）：奈良県農業大学校を前身とした、奈良県立の農業及び調理に関する大学校。農業の担い手を育成する「アグリマネジメント学科」と食の担い手を育成する「フードクリエイティブ学科」からなり、校舎内に宿泊ができるレストラン「オーベルジュ・ド・ぶれざんす桜井」を設置している。



基本方針3 自然の恵みをいただく味わう観光

心身の健康に着目して各地域の特性を打ち出した商品の開発や観光商品化（食・土産物）の展開を推進します。

また、これらの商品をたくさん楽しんでいただけるよう、滞在型の周遊観光の促進や観光拠点周辺が一体となったまちづくりに取り組みます。

(1) 食・土産物の充実、開発

三輪そうめんに代表される市の特産品や農産品の高付加価値化・PR強化を行い、「心身の健康」をイメージする食・土産物の充実・開発を推進します。

また、ふるさと納税の観光商品の充実と併せた、地域ブランドの強化を行います。

①特産品の開発及び特産品を活用した誘客促進

「大和さくらいブランド※」認定品の啓発、販売促進等を行う。また商店街等が実施する商店街活性化事業に対し支援を行うとともに、桜井市自慢の飲食店及び料理を周知するイベントを支援することで、地域経済の活性化を図る。

桜井駅南地区においては、滞在環境の向上や回遊性を持たせるための社会実験を実施するとともに、桜井駅南口広場改修にかかる施設配置、規模等の確定、及び回遊性の向上につながる公共空間や誘致店舗等の分析を行う。

小規模事業者に対しては、事業の持続的・継続的な発展を目的とした伴走型の支援を行う。



大和さくらいブランドロゴマーク

※大和さくらいブランド：桜井市にある桜井らしい個性と魅力を持った様々な素晴らしい産品（資源）のなかから、桜井市地域ブランド認定推進委員会が審査し、桜井市長が認定したものを「オールさくらい」の商品として取り扱うもの。



②農産品の開発補助・啓発

農産品生産拡大対策により地域の取り組みを継続して支援するとともに、安定した収入が得られる魅力ある農業の環境づくりを目指し、観光作物の商品開発・定着を図る。

農・商ふれあいフェスタにおいては、農業者と飲食業者とのマッチングを進めることにより、地産地消の推進、農産品の高付加価値化を図る。来場者に対しては、各種農業者団体等の取り組みを紹介し、農産品の魅力を伝えるとともに、地産地消を啓発する。



農・商ふれあいフェスタ

③三輪そうめんの啓発

桜井市を代表する地場産品である三輪そうめんの地域ブランド力と桜井市の知名度の向上を目指して、三輪そうめんの普及啓発に取り組む。



三輪そうめん

④ふるさと納税の推進

桜井市の代表的な返礼品である三輪そうめんは、多くの寄附者から選ばれており、ふるさと納税の返礼品を通じた特産品の全国発信が順調に進んでいる。

ふるさと納税制度を活用し、魅力ある返礼品による桜井観光の魅力発信を進めるために、引き続き桜井市商工会、桜井まちづくり株式会社とともに果物・野菜・肉・米・酒・加工品等の桜井市の厳選されたこだわりの逸品を形にするとともに、これら製品のブランド化に取り組む。

(2) 滞在型周遊観光の促進

山の辺の道などの古道を「癒やしのまほろば巡礼道」とし、道でつながる地域と連携した滞在型周遊観光を推進するとともに、滞在のための既存施設の充実・整備と新規宿泊施設の誘致、ワーケーションの推進、公共交通の二次交通としての活用を推進します。

① 滞在型観光の推進

奈良県全体の観光の傾向として、滞在時間が短くいわゆる「通過型観光」の割合が非常に高い。このことから、市内の既存宿泊施設との連携を図るほか、宿泊施設の新設及び増設を促進するべく奨励措置を講じることで、滞在型観光を推進する。

また、テレワークスペースと地域の観光資源を活用したワーケーションの推進を図る。

② 周遊観光の推進

市内周遊の交通の手段として公共交通を活用していただけるよう、情報を整理して発信するほか、公共交通だけではカバーできない周遊観光に対しては、「観光タクシー」の利用を促進する。また、市内のJRの駅を基点とした周遊ルートを整備することで、観光客に快適な周遊観光の案内を行う。



観光タクシー

また、ツーリングや二次交通手段としての自転車利用のニーズへの対応については、奈良県を含む官民連携でサイクリング関連事業に取り組む。

そのほか、子ども広場「ひみっこぱーく」は市外から多数の来訪があるため、周辺地域の観光情報を提供することで周遊観光を促す。



(3) 観光まちづくり拠点の整備

桜井駅前、大神神社、長谷寺等の周辺のまちづくりを活性化し、観光まちづくり拠点としての整備を行う。

① 桜井駅周辺地区のまちづくり

平成30年に取りまとめた「桜井駅周辺地区まちづくり基本計画」に基づき、桜井駅前マルシェの社会実験等各事業を進め、「“桜井らしさ”と“木”を生かし、地域の誇りを育むワンランク上の歴史・資源・ライフスタイルにぎわいあふれる住み良いまち さくらい」の実現を目指す。



桜井駅周辺地区まちづくり（桜井駅南口）

② 長谷寺門前町周辺地区のまちづくり

平成30年に取りまとめた「桜井市長谷寺門前町周辺地区まちづくり基本計画」に基づき、サイン整備等各事業を進め、「訪れて楽しくなるまちなみ・歩きたくなる参道づくり」の実現を目指す。



長谷寺門前町周辺地区まちづくり（桜馬場）

③ 大神神社参道周辺地区のまちづくり

平成29年に取りまとめた「大神神社参道周辺地区まちづくり基本計画」に基づき、参道整備等各事業を進め、「最古の歴史、自然の神霊を崇め、大切にしている人々の暮らしや生業が感じられ、心清らかに参拝や散策を楽しめるまち」の実現を目指す。



大神神社参道周辺地区まちづくり
（大神神社参道完成予想図）

基本方針4 誰もが心地よく楽しめる安全・安心な観光

事業者を中心に地域一体で感染症対策をはじめとした安全・安心の観光地づくりを進めるとともに、多様性を受け入れる環境整備を進めます。

また、周辺地域との連携強化による広域観光の推進と、観光振興の取り組みを進める市全体の観光振興体制の整備・充実を進めます。

(1) 感染症対策等の衛生環境の徹底、緊急時の救急体制の充実

観光事業者、地域、観光客がともに安全な観光対応（小グループ化、非接触化等）を図るとともに、三密の回避、検温・消毒の徹底の啓発を行います。

また、地震、台風等の自然災害や交通事故等の対応や予防、災害時の対応等の準備を行います。

① 感染症対策等の衛生環境の徹底

新型コロナウイルス感染症の感染が拡大している昨今において、現地の観光施設が感染症対策等を行っているかどうかといった「安全・安心の情報」が求められていることから、令和2年度に行った市内宿泊施設やタクシー事業者、路線バス事業者等の新型コロナウイルス感染症感染拡大防止策をとりまとめて情報を発信することで、安全・安心な観光地をPRする。



② 緊急時の救急体制の充実

観光地において災害が発生した場合に観光客が安全に避難できるような情報提供・案内が必要であることから、ハザードマップ（日本語・英語）情報を市内観光関連事業者に周知するとともに災害発生時の対応についての研修を行う。





(2) 多様性を受け入れる環境整備

交通、移動におけるバリアフリー化やサイン等の整備とデザインの統一化などのハード面での整備、アフターコロナでのインバウンドを受け入れる情報発信等のソフト面での環境整備を行います。

① 利便性向上のための環境整備

初瀬地域及び多武峰地域については、狭隘区間が長く続く道路のため、初瀬地域の白河バイパス整備事業等、奈良県と桜井市で連携し道路整備を推進する。

景観計画における重点景観形成区域である三輪・大神神社参道地区、桜井駅周辺・本町通地区、及び初瀬地区においては、景観ガイドラインに沿った建築物等の修景を促進する。

山の辺の道は、危険個所の整備や案内サインの設置などを行う。また市内観光トイレの整備を行い観光客の利便性向上を図る。



桜井市街なみ環境整備事業
修景済建物

② 外国人観光客に対応した環境の整備

令和7年の大阪・関西万博を一つの目標とし、令和元年度に策定した「桜井市インバウンド誘客戦略」に基づき、外国人観光客のターゲティング、市内コンテンツの選択と集中を行うことで、インバウンドの増加を図る。



③ 快適に観光を楽しむことができる観光案内

観光施設や周遊ルート等に道標・案内看板を設置し、観光客の利便性の向上を図る。



奈良県周遊ウォークルート 案内看板

(3) 広域観光

近隣の自治体との連携により、地域全体を巡る観光振興が進むような広域観光を推進します。

①世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会事業

奈良県・橿原市・明日香村と共に世界遺産「飛鳥・藤原」の登録を目指す。登録推進の一環として、令和3年度に「桜井市特別史跡山田寺跡保存活用計画」を策定し、引き続き令和6年度の登録に向けて構成資産の包括的保存活用計画、世界遺産登録推薦書の作成を進める。



山田寺跡

②市外団体との各種連携事業

以下の団体等との連携事業を進める。
 桜井宇陀広域連合事業、ヤマト地域連携推進協議会
 大和まほろば相撲連絡協議会、
 竹内街道・横大路（大道）活性化実行委員会
 歴史街道推進協議会、大和飛鳥ニューツーリズム
 中南和広域観光協議会

竹内街道・横大路
イベントブース出展**③奈良県との観光連携事業**

奈良県と連携し、なら歴史芸術文化村事業、なら記紀・万葉プロジェクトなど魅力発信事業に取り組む。

また、令和3年度に奈良県が策定した「奈良県観光総合戦略」に基づき、山の辺の道の観光による活性化を目的とした YAMANOBE PROJECT に取り組む。



(4) 観光推進体制の整備・充実

官民連携、広域連携による効果的な展開、観光財源確保を進めるとともに、観光協会等の観光組織を強化します。また、観光ガイドを支援します。

① (一社) 桜井市観光協会との連携

一般社団法人桜井市観光協会との連携して桜井市の観光情報発信、市内観光関連事業者との連携等を推進する。



桜井市観光協会ホームページ

② 桜井市観光ボランティアガイドの会との連携

観光客により深く桜井市を理解し、楽しんでいただくため、観光ガイドをボランティアで行う桜井市観光ボランティアガイドの会と連携することで、観光客の快適な観光を推進する。



ボランティアガイド活動

③ 桜井観光案内所の運営

来訪者への観光案内機能充実を目的とし、観光案内の窓口である近鉄桜井駅内の桜井観光案内所の運営を行う。運営委員会は、桜井市、桜井市観光協会、桜井市商工会、桜井木材協同組合で組織する。



桜井観光案内所

④初瀬観光センターの運営

初瀬地域来訪者への観光案内機能充実を目的とし、初瀬地域の観光案内の窓口である初瀬観光センターの運営を行う。



初瀬観光センター



基本方針5 暮らしの魅力が実感できる繋がる観光

桜井市に興味を持った「桜井ファン」が、地域愛を深め、新たな観光を創造できる取り組みを進めます。

また、人材を育成し、持続可能な地域経済の活性化に繋がります。

(1) 桜井ファン開拓

地域資源を生かした定期的な活動など来訪のきっかけづくりを行うとともに、様々なメディアの活用や観光 DX の推進を行うことにより、桜井ファンの開拓を図ります。

① 桜井ファン開拓のための情報発信

東京よみうりホールで開催する「東京フォーラム」、田原本町とのシンポジウム、並びに纏向学通信の発行など市内文化財の発掘状況や研究結果などの情報発信を行うことで、桜井ファンの開拓を図る。



東京フォーラム

② 桜井市マスコットキャラクター「ひみこちゃん」の活用

卑弥呼をモチーフにした桜井市マスコットキャラクター「ひみこちゃん」を有効に活用し、桜井ファンの開拓を図る。



桜井市マスコットキャラクター
「ひみこちゃん」



③ マスメディアを活用した効果的な情報発信

新聞・テレビといったマスメディアとの連携強化により、効果的に桜井市の観光・イベント情報を発信する。また、地域活性化が期待できる映像作品のロケーション撮影を誘致するため、桜井市と桜井市商工会で大和桜井フィルムコミッションを組織し、撮影条件に適した場所の情報提供等を行い、円滑な撮影を支援する。



④ 観光 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

近年特に重要視されている SNS 等のソーシャルメディアや、（一社）桜井市観光協会で作成した観光 VR 映像などのデジタル技術を有効に活用することで観光 DX を推進し、新たな地域観光モデルの構築を図る。





(2) 人材育成

シビックプライドや郷土愛を育み、暮らすような観光を実践できる環境づくりを推進する人材を育成します。

①観光人材の育成

観光振興に資する活動に対し補助を行い、市民協働によるまちづくりを推進する。

また、観光客に対し、より専門的な知識を有するガイドや、多言語対応できるガイド等を育成することで、観光客の満足度向上及びリピーターの確保を図る。



②観光関連団体及び事業者との連携強化

観光関連団体及び事業者と連携して「桜井らしい」おもてなしの仕組みづくりや受け入れ環境の整備等によりサービスを向上するとともに、観光メニューづくりにも積極的に取り組むことで、観光客の満足度を向上させ、滞在型・宿泊型の観光地として市の活性化を図る。



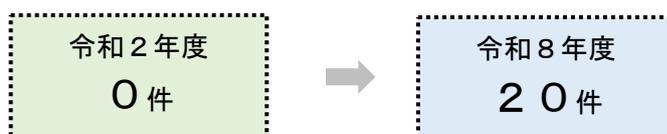
桜井市おもてなし仕組みづくり協議会研修



4-3 成果指標

「癒やしの里“桜井”」を推進し、地域愛を深めた「繋がる観光」の展開状況及び目標の一つである「持続可能な地域経済の活性化」の達成度を測る成果指標として以下を設定します。

成果指標1 「癒やしの里“桜井”」PR事業累計数^{※1}

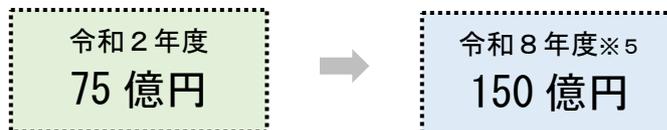


成果指標2 桜井ファンの数^{※2}



成果指標3 観光消費額

⇒観光消費算出対象者数^{※3} × 観光客消費単価^{※4}



本計画の取り組みを進めることで、「癒やしの里“桜井”」のプロモーション事業の展開を目指します。また、桜井市への観光客だけでなく、地域と関わりのある方やSNSフォロワーなど、桜井ファンの数を増加させると共に、新型コロナウイルス感染症が収束に向かうことを前提に、観光消費額の今後のV字回復及びさらなる上積みを目指します。

※1：計画終了年度に市民アンケート調査により計測

※2：桜井市への来訪者数の中で特に観光を目的として来られている方や、イベント参加者、SNSフォロワー、ふるさと納税者数等を加えた人数

※3：桜井市への来訪者数の中で、特に観光を目的として来られている方の人数

※4：奈良県が実施する観光パラメータ調査の結果を市内特性で補正して算出（各指標の詳細な算出方法・数値根拠は別冊資料参照）

※5：本計画の各種数値は奈良県の観光パラメータ調査の結果を元に算出していることから、令和8年度の成果指標は、令和元年度の桜井市の観光消費額132.8億円に対し、奈良県観光総合戦略の成果指標の上積み幅（令和元年度：1,807億円⇒目標値：2,100億円）を利用して算出



第5章 観光振興の推進方策

5-1 関係者の役割と連携

行政、観光・産業関連団体、事業者、市民・NPO がそれぞれ役割を果たし、連携・協働して効果的な事業推進を図ります。そして、桜井ファン（関係人口）の増加により持続的に発展する観光振興を促進します。

① 行政の役割

- ・観光が地域を活性化する主要な産業として、財源確保、環境整備、人材の育成。
- ・観光関連事業者・市民・NPOなどと連携した取り組み推進。
- ・観光ニーズの把握や分析などの基盤づくり。
- ・PRの仕組みづくり、観光振興に関わる情報提供、ふるさと納税制度の有効活用。
- ・市民・NPOや事業者など観光振興に関する積極的な活動への支援。
- ・国、県、他の行政機関との連携、関連自治体の広域的な展開等、効果的・効率的な推進。

② 観光・産業関連団体の役割

- ・事業者の相談対応や事業者間の連携支援など効果的な観光振興のプラットフォーム機能。
- ・観光客の増加や観光消費拡大に向けた特色のある情報提供や企画。
- ・上記を達成するための組織体制の充実・強化

③ 事業者の役割

- ・観光客のニーズに応じ資源特性を生かした魅力的な商品・サービス等提供。
- ・他の事業者や市民・NPO、関連団体、行政と連携した地域経済の活性化。
- ・観光客の満足度の向上と桜井ファン獲得。

④ 市民・NPOなどの役割

- ・豊かな自然と歴史遺産・伝統文化を理解し、楽しみながら継承。
- ・観光客等との交流（桜井市の良さを伝える）。
- ・SNS等口コミ情報発信。
- ・観光関連事業者、関連団体、行政との連携・協力した地域の魅力づくり。

⑤ 桜井ファン

- ・桜井市が元気になる新しいコミュニティビジネス、まちづくりの企画など、地域との関係構築。

5-2 計画の進行管理

本計画の推進にあたっては、行政・観光関係事業者が連携し、事業の進捗状況などを把握し、その評価に基づく改善を行うことで、将来像の実現を目指します。

5-3 SDGs との関係

桜井市では、最上位計画である「第6次桜井市総合計画」の中で、持続可能な開発目標（SDGs）の達成を目指し、17のゴールとの関係性を意識しながら各種施策に取り組んでいます。第2期桜井市観光基本計画では、特に以下5つの目標達成に向け、各施策・事業に取り組めます。

持続可能な開発目標（SDGs）		第2期桜井市観光基本計画における取り組み
 3 すべての人に健康と福祉を	すべての人に健康も福祉も	感染症対策等の衛生環境を徹底することにより、観光客と受け入れる市民双方が安心・安全に観光業に取り組むことが出来る観光地づくりを目指す。
 8 働きがいも経済成長も	働きがいも経済成長も	「癒やしの里“桜井”」を推進することで地域経済を活性化し、雇用創出、文化振興、地場製品の販促など持続可能な観光業を促進する。
 11 住み続けられるまちづくりを	住み続けられるまちづくり	地域住民、事業者、桜井市、県が連携し、観光資源を活用したまちづくりを進めることで、地域の持続的な発展や活性化を目指す。
 12 つくる責任 つかう責任	つくる責任 つかう責任	特産品の開発や活用、地域ブランドの確立を進めることにより、地場製品の消費、販促を進める。
 17 パートナースhipで目標を達成しよう	パートナーシップで目標を達成しよう	地域住民、事業者、桜井市、近隣市町、県の効果的な連携により、広域観光を推進するとともに、人材育成や桜井ファンの開拓を進める。

参 考

一 計画策定の経緯 一

(1) 第二期桜井市観光基本計画策定検討委員会設置

令和3年4月1日～令和4年3月31日

(2) 第二期桜井市観光基本計画策定検討委員会委員名簿

役職	選考理由	氏名	所属
委員長	学識経験者	一柳 茂	桜井市行政評価外部評価委員会 会長
委員	学識経験者	津田 康英	奈良県立大学地域創造学部 准教授
委員	観光関係者	林 勤	一般社団法人桜井市観光協会 会長
委員	産業関係者	福井 達郎	桜井市商工会 会長
委員	観光関係者	細谷 悦子	桜井市観光ボランティアガイドの会 顧問
委員	観光関係者	岡本 健	桜井まちづくり株式会社 代表取締役社長
委員	公募委員	山本 規子	一般社団法人奈良県建築士会桜井支部 支部長

(3) 第二期桜井市観光基本計画策定検討委員会開催年月日と内容

年月日	内容	
令和3年 5月28日	第1回 第二期桜井市観光 基本計画策定検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・策定方針の決定 ・第一期桜井市観光基本計画の検証 ・現状と課題の整理 ・将来像と基本方針の検討 ・観光消費額算定方法の検討
令和3年 10月12日	第2回 第二期桜井市観光 基本計画策定検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・施策・取り組み内容の検討 ・観光消費額算定のための調査の 確認（中間報告）
令和3年 11月2日	第3回 第二期桜井市観光 基本計画策定検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・施策・取り組み内容の検討 ・成果指標と数値目標の検討 ・計画案の検討
令和3年 12月20日～ 令和4年 1月18日	パブリックコメントの実施（意見数 22件）	
令和4年 2月17日	第4回 第二期桜井市観光 基本計画策定検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメント実施報告 ・計画案の決定

第2期桜井市観光基本計画

■編集・発行■

令和4（2022）年3月

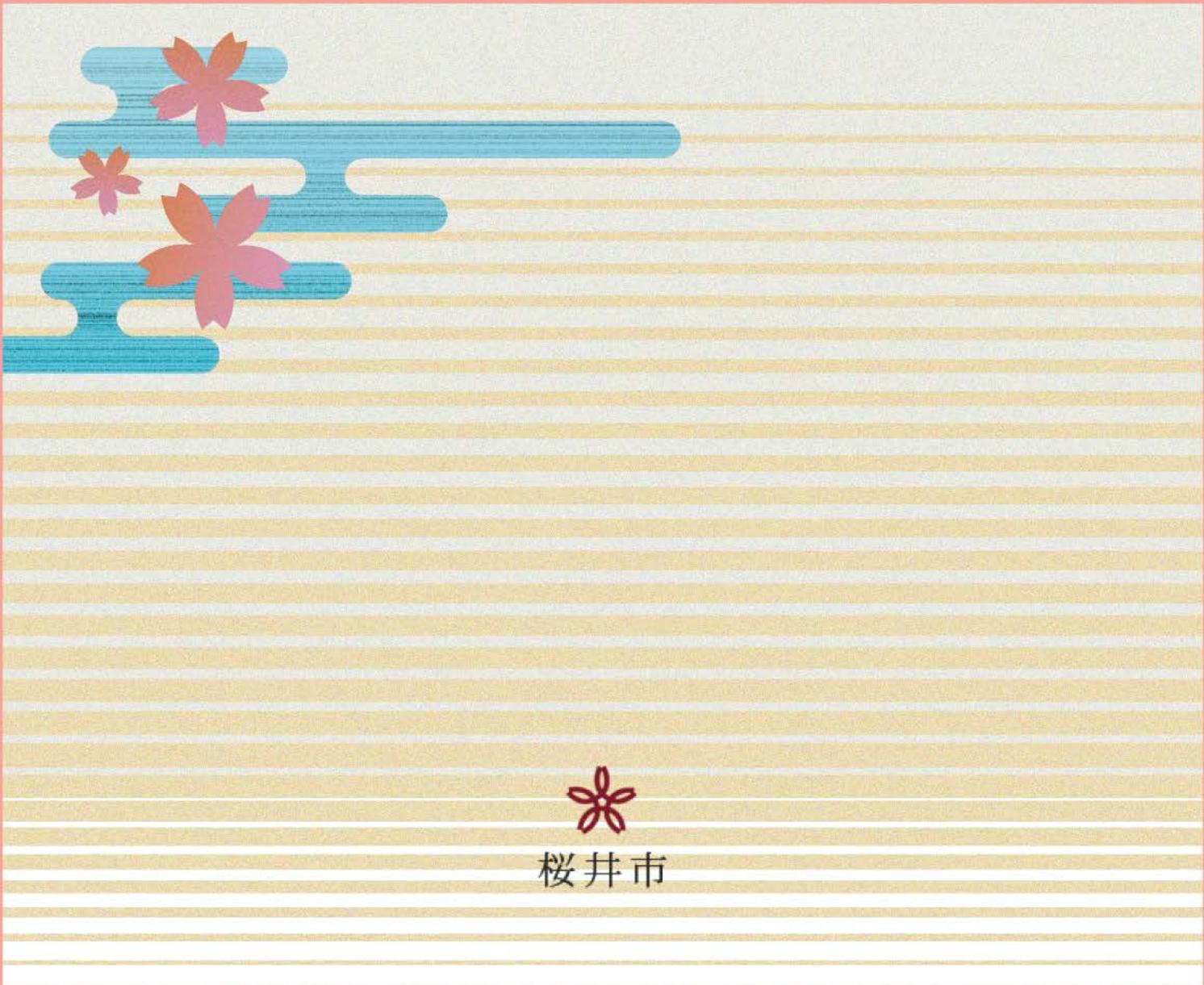
桜井市 まちづくり部 観光まちづくり課

〒633-8585

奈良県桜井市大字粟殿 432-1

TEL 0744-42-9111（代表）

<https://www.city.sakurai.lg.jp/>



桜井市

